

「殺し」と「養生」

日野善太郎

或る日、おにぎり屋サンが……「労働者渡世」の読者には、もうおなじみのアノおにぎり屋サンが……こんな話をしてくれた。

「土方をはじめてまだ間もないころ、ある現場で世話役から△角スコ持ってこい▽いわれたんやけど、なんせまだ素人だから何のことか判らへんねや。行きやアわかるやろ思つて道具小屋に入つたけど、ウロウロするばかりやった。△角スコも知らんのか▽つて、世話役からおこられて……今やから笑い話にできるけど、あのころはスコがスコップの略で、そのスコップにも、角スコとか剣先とか、いろいろあることを知らんやつたんやねえ」

私より少し年上の友だちも、これとは別のときだが、同じようなことを言っていた。

「いきなり△バタ角持つて来い▽いわれて、何のことか

判らないでボヤボヤしてたら△お前アホか、お前の足もとにあるじゃないか▽」

こんな思い出はだれにでもある話じゃないだろうか。白状すれば、実は私自身にも似た話はたくさんある。

まだ三十になつたかどうかの生意気さかりのころ、いっばし一人前の土方のつもりで張切つていたんだが、土方の知恵は耳学問で、中途半ばなものだから、骨材は鉄骨のことだと、生かじりにおぼえてしまった。

或るとき、世話役からダンプを現場のうらへ廻せといわれて、行つてみたらそこには鉄骨が山とつんである。よせばいいのに知つたかぶりをして

「あそこには骨材がつんであつてダンプは通れません」と報告したら、世話役、ハテと首をかしげて、

「あんな所に骨材がある筈がないが」

「でもあるんです」
「それがおかしい。だれが置いたんだ」
「それは……」

ブツブツ言いながら一諸に来て、現場を見廻した世話役

「どこにあるんだ。ないじゃないか」

「いえ、そこにホラ」

「そこつてどこだ、鉄骨のカダか」

そのとき、アツと思つたんだ私は。

世話役もヘンな顔していたが、そのうちにヒョイと私を見て笑い出した。

「バーカ。お前、鉄骨と骨材をまちがえてるな。いいかつこしやがつて、うろおぼえの言葉を更うから恥かくんだ」

「違うんですか」

「大違いだ。骨材というのはナ、コンクリートに使う砂やバラスのことを言うんだ。おぼえとけ。恥くはひときの恥、知らぬは一生の恥つていうぞ。知らないことは何でも人に聞くもんだ」

その時の私、まったく穴があつたら入りたい気持ちで、こちらとら土方だから自分で掘りたくなつた。

どんな職業にも、その職業にだけ通用する言葉があつて、土方社会には土方社会の言葉がある。中には素人が聞いたら目を廻しそうな言葉もある。

基礎工事のあと、土止め板や、型ワタ、切バリなどを取りのぞかないでそのまま埋めてしてしまうのを「埋め殺し」にすると言う。

また、ロープを結ぶとき、あとでとけないように結ぶのを、ロープを「殺す」という。

ところで、杭(クイ)うちのやくらや、タワークレーンのタワーなどは、重心が高いため安定させるために、ひかえロープを四方または三方からはる。そのひかえロープのことを「虎」という。

抗ううやぐらのトラは、ひかえ杭をうってトラじりを結んでもよいが、タワーのトラはバタ角などに巻きつけ、殺しに結んでコンクリートで固めて、地中に埋める。工事が終つてタワーを解体するとき、現場では解体などとは言わない。「バラス」と言う。

「タワーはバラスしたけどトラはどうする? 掘り出すか」「あんなもの、どうせ殺してあるから掘り出しても使えない。トラじりのところで切つて、そのまま埋め殺そう」知らない人が聞いたら、まるで殺人事件である。あわ

わてて一〇番に電話するかもしれない。タワーさんとトラさんが殺された。

「バラす」とか「殺す」とか、物騒な言葉もあるが、それに私たちの社会には「養生」なんて言葉もある。ただし、世間一般に使われるのと、土木建築の社会で使うのとは、同じ「養生」でも少し意味が違う。

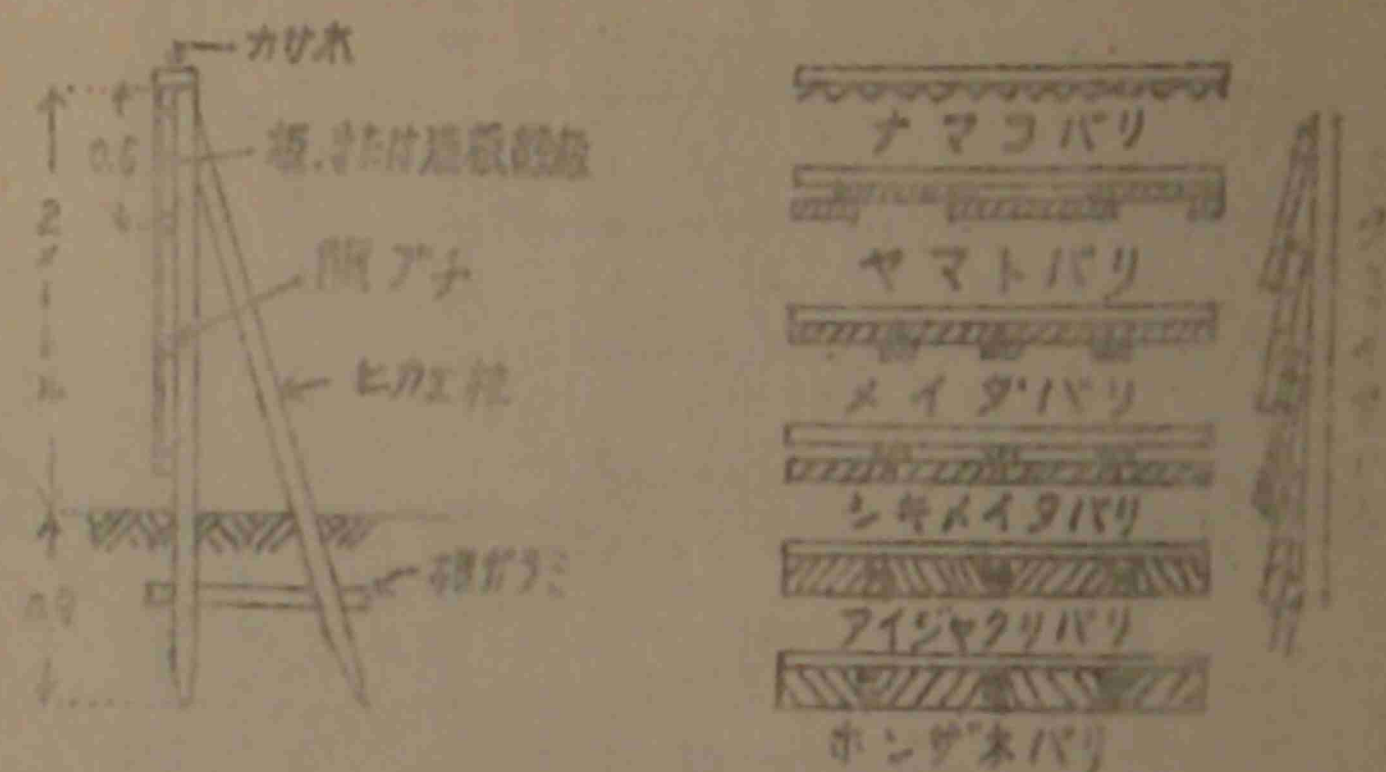
ふつう「養生」といえば「健康の手あてをする」など、人間の体、特に健康に健康関係ある意味で使われる。

土方社会でいう「養生」は「守る」「かばう」などの意味だが、人間の体や健康には特に直接の関係はない。

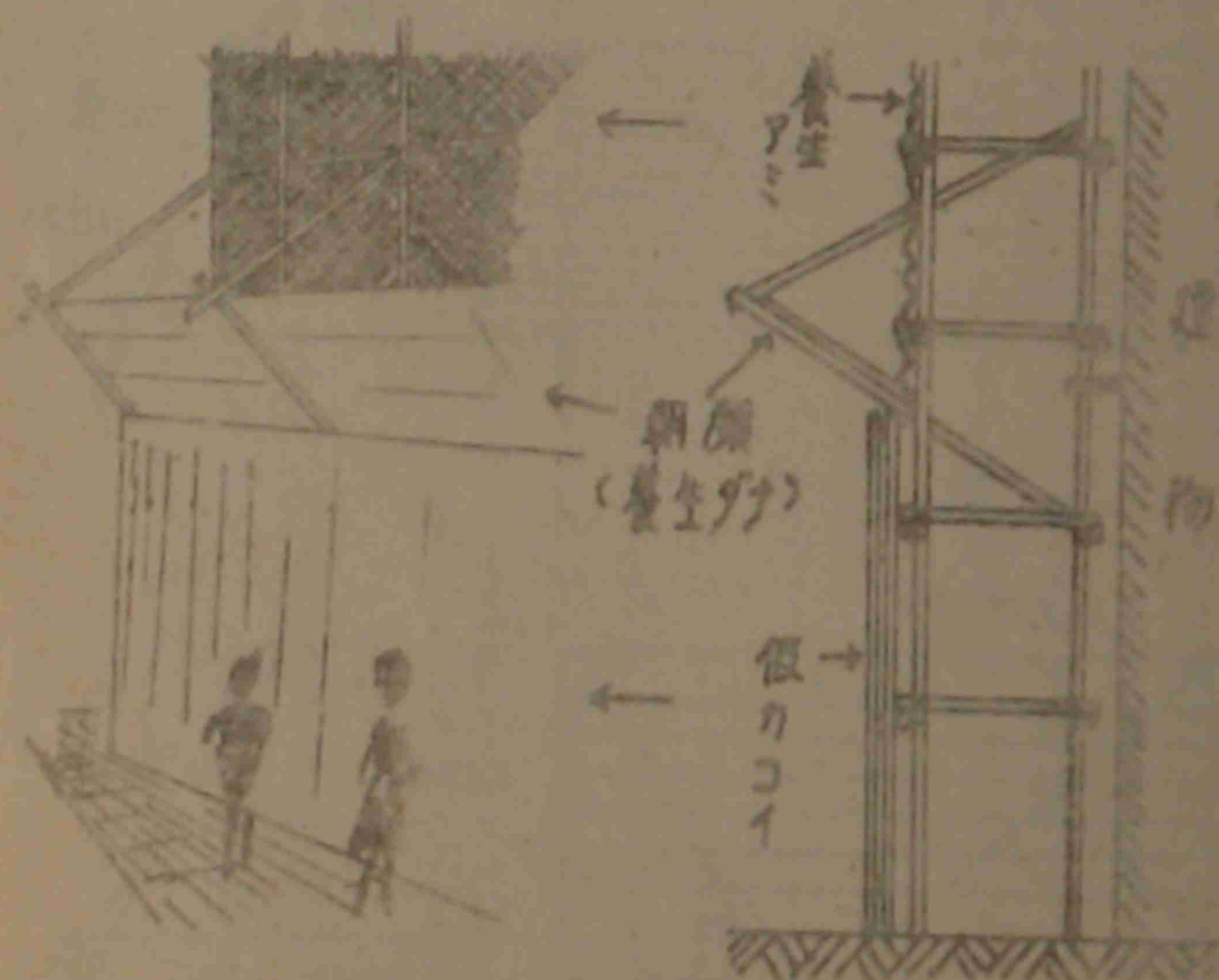
台風が近づくと、現場事務所、下小隊、足場などがこわれたり、とんだりしないよう、危ない所や弱い所をしらべて、取りかえたり、補強したりする。

たとえば壁根が飛ばされないように、丸太とワイヤーでおさえたり、足場に「ヤラズ」や「ツナギ」をふやしたりする。その仕事のことを「台風養生」という。

工事ははじまると、安全や盗難防止のために、部外者が立入らないよう、現場に「仮かこい」をつくる。竹矢来、鉄条網（てつじょうもう）、板がこい、鉄板べいなどいろいろあるが、この「仮囲い」をつくるのも「養生」という。



板カコイ - 板ベイ, ナマコベイ



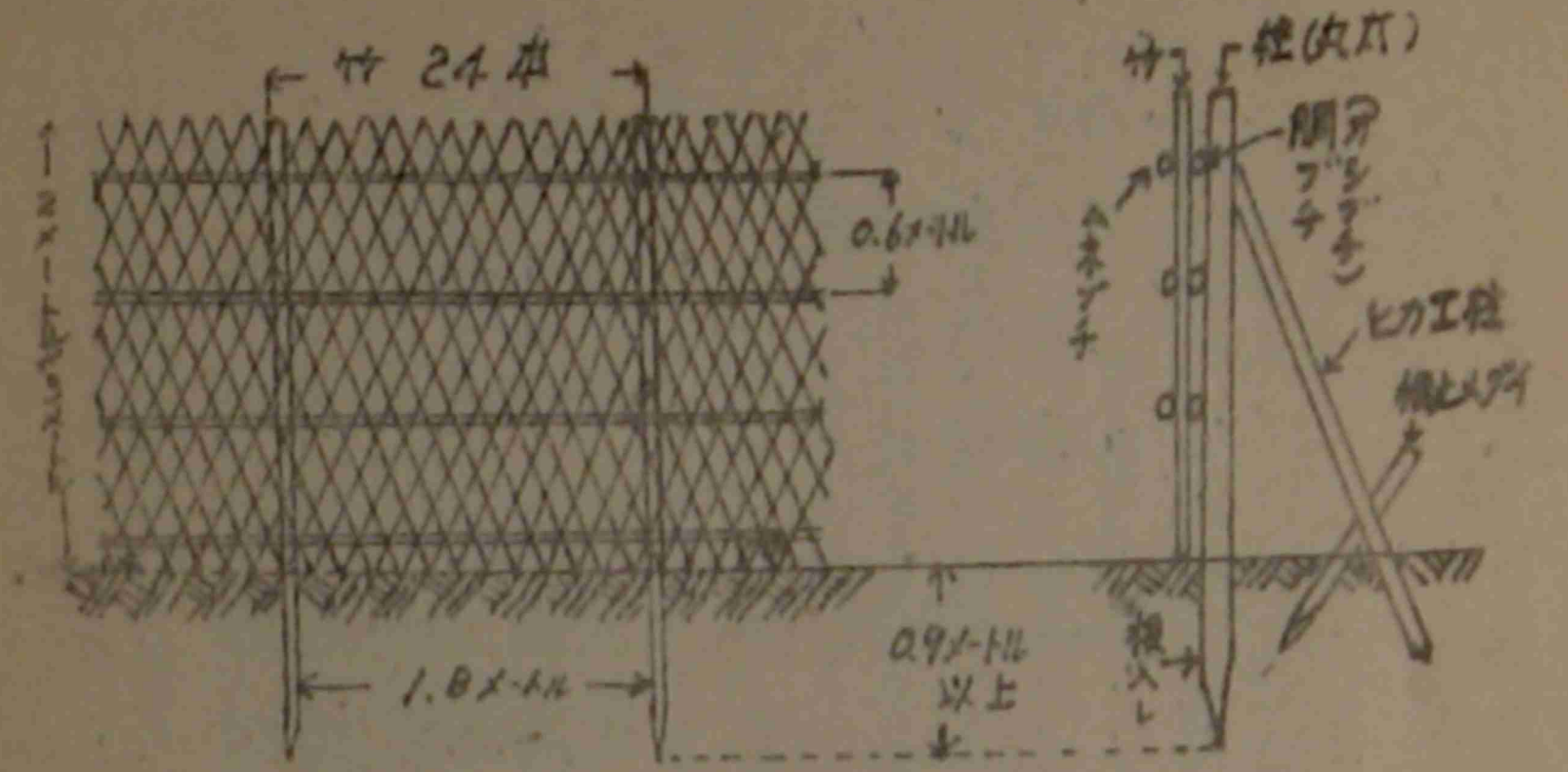
養生アミ・朝顔・仮カコイ

落下物で通行人にめいわくをかけないように、仮囲いの外へ足場をはね出しにして、道路に根をかせたような物をつくることもある。高層ビルの現場でよく見かける。あれは「朝顔」というやさしい名がついているのだが、その「朝顔」をつくるのも「養生」である。

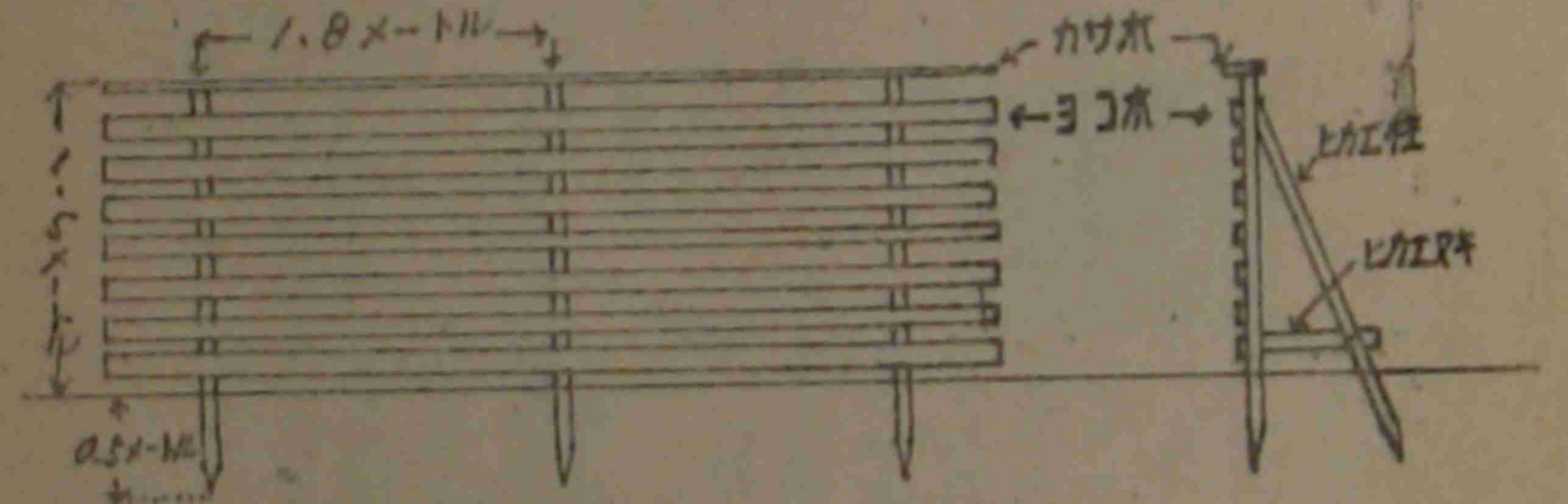
足場にシートや金網をつけるのも同じ目的だが、これも「養生シート」とか「養生金網」とよばれている。

「養生金網」は、タテにはって落下物を防ぐだけでなくヨコにもはって、人間のツイ落を防ぐためにもつかわれている。

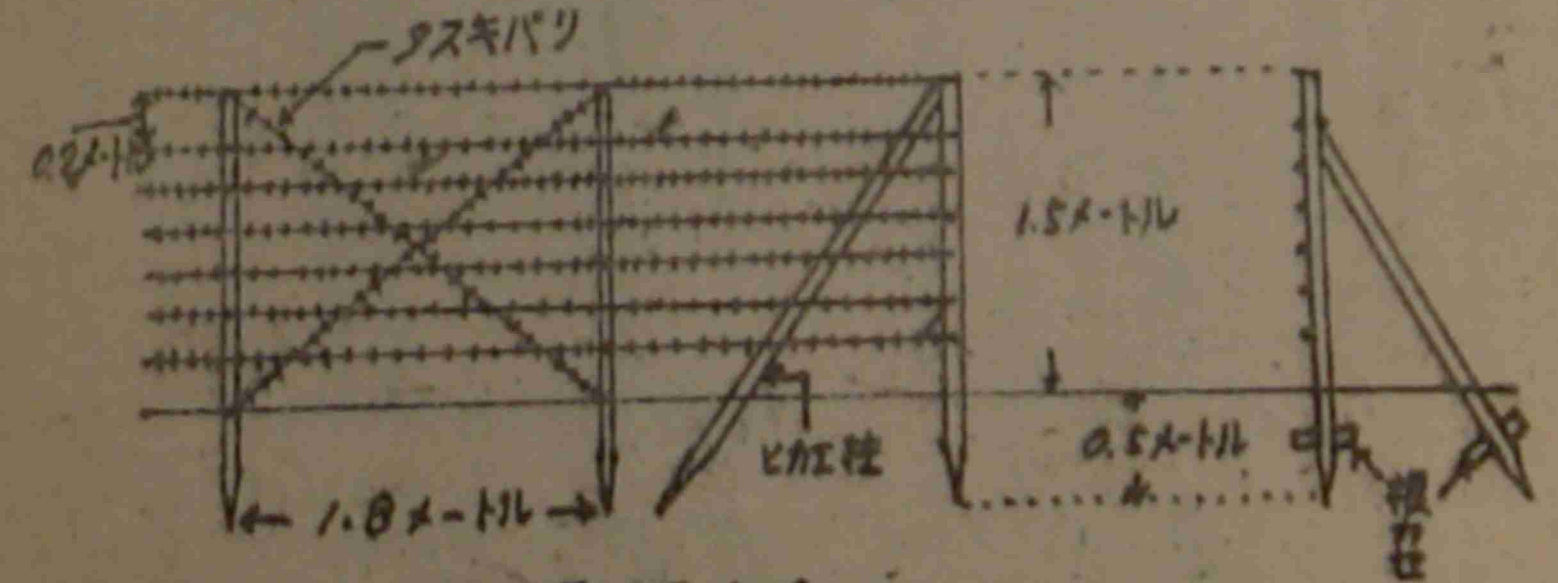
鉄板ベイ・鉄板ベイ 柱は十センチ角以上とし、一米二〇センチ間隔以上の掘立。ヒカエは柱三本に一本以上の割合とする。外部はペンキまたはクレオソートをぬると、見た目にもきれいだし、長もちする。根入れは板ベイでも竹矢来でも、柱の地上の高さの三分の一（ヘイの高さ三米なら根入れ一米）以上とし、根カセ、根ガラミなどで補強するのが安全である。また根入れ部分に防腐剤（ボウフサイ）をぬるのもよい。



竹矢来



木さく



鉄条網さく

※竹矢来 今では時代劇映画でお目にかかる位で、実際にはつかわれなくなっただけで、昔は「仮囲い」といえばこれのことだったようだ。柱は末口(スエクチ細い方)で七センチ五ミリ以上の丸太を、一米八〇センチくらいの間隔に立て、高さは二米以上とする。胴ブチには丸竹または小割材(コワリザイ)を六〇センチ間隔に釘でとめ、矢来子(ヤライゴ)は三センチ以下の丸竹または四センチ位の割竹を、細ナワまたはハリガネ

で胴ブチに結ぶ。

※木さく・鉄条網さく かんたんな「仮カコイ」としては、今は鉄条網さくがよく使われている。柱は末口七センチ五ミリ以上の丸太で、間隔一米八〇センチくらい、高さは一米五〇センチ以上が普通。横板または有刺鉄線はだいたい二〇センチ以内に取っつけるのがよい。また、有刺鉄線の場合は横だけでなくタスキバリにした方がよい。

シートや金あみは、大風のときには風をはらんで足場が倒れたりするので、はずさなければならない。シートをはるのも「養生」だし、台風のとくにそれをはずすのも「養生」なのだ。

土木建築の工事は測量(そくりよう)からはじまる。必要となるにタイをうって、高さ、深さ、位置などをしてめさねばならない。とくに重要なタイ(役タイ)は、工事の途中でこわされては困るので「かこい」をこしらえる。これもまた「養生」である。

コンクリートの打ちこみ・・・型ワクに流しこむ仕事・・・の後、完全にかたまるようにコンクリートを気をつけて守らなければならない。これも「養生」である。

コンクリートは、放っておけば自然にかたまると考えるのは素人の考え。犬や猫に歩かれたり、風で物がとんできたりして、形がくずれては困るし、まだかたまらないうちに雨がふったりすると、セメントが流れて砂とバラスばかりになっても困る。仮ワクが風などで動いても困る。

だから、仮ワクは頭丈(がんじょう)でなければいけないし、場合によっては打ちこみの後、コンクリートにシートなどをかぶせて守らねばならない。

真夏のカンカン照りのときには、かわきが早すぎてクラック(ひびわれ)ができるおそれがあるから、ぬれたムシロ、アンベラなどをかけたり、時々水をまいて水分の

余分な蒸発(じょうはつ)をふせいでやる必要がある。

それとは逆に、真冬の寒いときには、コンクリートが凍ってしまうことがある。コンクリートが凍ると、まるで霜柱のようになってしまい、氷がとけてもかたまりな。そこでそういう寒いときには保温シート(電気毛布のように電流を通してあたためる)や、建物内部から練炭ストーブなどで、コンクリートを守ってやらねばならない。コンクリート養生といっても、場合によって、いろいろなのである。

以上、いくつかの例でわかるように、土方社会でいう「養生」とは、工事に必要な物をカコイなどをこしらえて、危険から守ることを言うので、世間でいう「養生」とは同じ言葉でも少し使い方がちがう。

ところで、コンクリート打ちこみのとき、切りバリなどがどうしても取れないで、そのまま「埋め殺し」にしてしまうのは、よくあることだ。そしてその時のコンクリートも勿論「養生」しなければならぬ。

「殺し」たり「養生」したり、土方の仕事も大変なのだ。

測量グイの養生のところで、役グイという言葉が出た。これもおぼえておくと、何かのときに役に立つと思うので、かんたんに書いておこう。

遠すぎたりで、見えないところが出てくるので、機械をもりかえなければならぬ。もりかえ点が正確でないと測量全体が狂ってしまうので、これも重要なポイントである。

アブレかあがった

「日雇い労働者給与金(アブレ)の日額が五月から、印刷保険料の額が四月から、それぞれ値上げになつてゐるのはもう知つてゐるんじゃないか。」

話を聞いたリ、認定に並んでゐる人達の半額をみたりした感じでは、たのう近くが一級印刷を貼つてゐるようだ。

リ、日雇い労働者公共職業安定所長(アブレ)の事務所まで出て、印刷保険料の額は、たのう近くが一級印刷を貼つてゐるようだ。

五、印刷保険料の額は、たのう近くが一級印刷を貼つてゐるようだ。

金日額もあがるとのことになつてゐる。印刷保険料の額は、たのう近くが一級印刷を貼つてゐるようだ。

六、四月二日以降の印刷保険料が、たのう近くが一級印刷を貼つてゐるようだ。

ベンチ・マーク(水準点) 土木現場で「B・M 24・414m」などと書いたタイをよく見かける。あれである。B・M(ビーエム)はベンチ・マークの略で、数字は海面からの高さをあらわしている。そのタイの印のあるところ、タイにクギがうってあればそのクギの頭が、海面から24メートル41センチ4ミリの高さということになる。

B・C(ビーシー) 曲線始点 カープのはじまりをあらわす。

E・C(イーシー) 曲線終点 カープの終りを示す。

I・P(アイピー) 交点 二本の直線のまじわる点。

インターともいう。

引照点(いんしょうてん) ひかえグイ、または逃げグイともいう。中心点(線)のタイが掘り方などのために無くなったり、埋まつたりするおそれのあるとき、あとでその点が求められるように、少くとも二本以上うっておくグイ。

もりかえ点(ターニング・ポイント) 略してT・P(ターピー)ともいう。「もりかえ」とは土方用語で場所をかえること。仮ワクを組むのに足場があたるから、建地(たてじ)を一本だけもりかえようなどとかう。測量の場合には、一つの点からでは中間に建物があったり、

些ま主にその日を過ぎた証明書をもらつて居てください。

ようするに、五は、井当や交通費などの現物支給も、現金に換付して、現実にあらう(現金に上乗せして)現金支給にあらう。というところ、なれ(金)の大阪城(大阪城)によると、今年三月三日の

大阪府雇用保険課との国交の中で、(就労中は)書留の現金証明が五、四〇〇円以上のときは、一級(を)印刷と同様に扱う」との回答も引き出した。うん。

六は、五二〇〇円では事につたので二級の印刷を貼つたが、よく考えれば、井当や交通費など現物でもらつたものと加えれば五、四〇〇円以上になり、一級の印刷を貼つてあらう。うん、た、と後で気が付いた時は、オヤジの証明が一級に訂正します。ということ。

賃金支給について、計算上は誤りがあり、まちがつて二級印刷を貼りました。〇月〇日分と〇月〇日分について二級印刷の取扱いとして頂きますようお願ひ申し上げます。

という証明をオヤジがところろ。みんなが一級の四一〇〇円がもらえるように。